

聖学院大学総合研究所〈児童〉における「総合人間学の試み」研究主催  
2019年度第2回〈児童〉における「総合人間学の試み」研究会  
発表：丸山綱男「AI時代と向き合い未来を拓く子どもの教育者として」



上：丸山綱男客員教授 下：会場の様子

2020年1月29日（水）、聖学院大学2208教室にて、児童学科客員教授・丸山綱男氏の最終講義が行われた。

丸山氏はこれまで埼玉県内の様々な学校・教育委員会においてご活躍された後、聖学院大学に着任された。その業績により、平成29年には瑞宝双光章を叙勲されている。聖学院大学においては、専門である教育工学を礎として、子どもの意思を大事にする指導方法を学生達に伝えてくださった。

最終講義のテーマは「AI時代と向き合い未来を拓く子どもの教育者として」。これから巣立ってゆく学生たちへのメッセージであると同時に、まさに丸山氏が教育者として歩んでこられた道程を辿る旅でもあった。以下にその概要を報告する。

講義は、美空ひばりをAIで「復活」させた2019年紅白歌合戦の映像から始まった。現代の事象に学生たちの目を向けさせようとする丸山氏の粋な取り計らいであった。

その後、1970年代から現代に至る教育工学の歴史が辿られた。1970年代、教育工学においてプログラム学習は紙ベースに拠るものであった。1980年代には、丸山氏は効果的に子どもの理解を促すための教授フローチャートを考案された。教員と子どもの行為を四角と菱形により表すことで、どの教師でも同一レベルの指導ができるメソッドを共有できるようになり、やがてはコンピューターソフトの開発を見据えた設計図へと至る将来像を結ぶこととなった。1990年代にはとうとうコンピューターが教育現場に導入され、Computer Assisted Instruction（CAI＝コンピューター支援教育）が展開された。CAIとは「学習者がコンピューターと対話しながら、自己の能力や理解度に応じた出題や指示を受けてする学習法」であり、個人としての子どもの学びを可能とする手段となった。

時代の変遷とともに技術の発展があり、教育者もまたそうした動向を踏まえた教育を考えなくてはならない。その道筋を、丸山氏は自らの研究成果とともにお示しくくださった。

そして現代はAI時代とされる。AI＝Artificial Intelligenceとは、膨大な情報や知識を扱うものであるが、そのような時代の人間だからこそ可能となる領域があるはずである。ここで丸山氏から学生たちへ向けて、「人間にしかできないこと・能力とはなんだろうか」という問いかけがなされた。

その答の一つ目は「知恵を集めこれまでにないものを生み出す能力」＝「創造力」である。二つ目は、「相手の気持ちを細やかに感じ取り適切に対応する能力」＝「即応力」である。聖学院大学のモットーである“Love God and Serve His People 神を仰ぎ、人に仕う”は、まさに即応力を必要とするものであり、ボランティア精神にもつながるものであ

る。そして三つ目は「チームをまとめ上げて目的に向かって動かす能力」＝「統率力」である。協働作業を通じて複数の人々が結びつき、より大きな成果を出すことは、人間によってこそ可能となる。

また、「教育者」はAIによって奪われにくい職業のひとつ」と示唆された後、「AIができない」上に「人にまねされる存在」になるには？」という問いかけをなされた。その答えとして丸山氏が挙げられたのは「創造力を高めるニッチ戦略」及び「創造力を生む異結合（化学反応）」である。

「創造力を高めるニッチ戦略」とは、言い換えれば「自己の強みを限られた領域に「集中・特化」させること」である。例えば、就職したばかりの者にはどうしても経験や教育の質といったところでのリソースがベテラン教師と比較して不足せざるをえない。だからこそ、限られた分野で発揮する自分なりの潜在能力を大事にしてほしい、と丸山氏は仰った。

また二つ目の「創造力を生む異結合（化学反応）」とは、「既存のものに異質のものを＋αする」ということである。その例として、丸山氏はこれまでご自身で手がけてこられた仕事の数々——例えば地域と学校を繋げる運動会や、子どもの想い・考えを生かした施設管理、ワゴン図書館など——を紹介してくださった。

講義終盤、「バックキャストिंग」という言葉が提示された。丸山氏によれば教育工学的手法は、ゴールを最初に決定し、そこから逆算思考により全体の到達目標と下位目標を設定するものである。そうした「バックキャストिंग」は、日常生活においても役立つ論理的思考の礎となることを強調された。とりあえずの行動を続けるだけの「積み上げ思考」は「曖昧な生き方」でしかない。生き方それ自体にも逆算思考を適用してこられた丸山氏のアドバイスは、学生たちの今後の人生に向けて大きなエールとなったであろう。

最終講義には、児童学科の在学生、卒業生や教職員に加え、丸山氏の小学校教諭時代の教え子の方々もいらしてくださり、アットホームな雰囲気で満たされた。丸山氏がこれまで子どもたちへと蒔いてきた「種」が、長い年月を経てなお彼らの中に育ち続けていることが実感された。また丸山

氏は講義冒頭で、「「恩返し」ではなく「恩送り」をしたい」と仰った。それは、前者が「誰かに恩を報いて完結する」ことになってしまうのに対し、後者は「受けた恩を多くの方に送る」、つまりそれによって恩が広がってゆくことに主眼をおくからである。

丸山氏の今後のさらなるご活躍を祈りつつ、本報告を終わりとさせて頂く。

（報告者：久保田翠〔くぼた・みどり〕 聖学院大学人文学部児童学科准教授）

# 本

## 新刊のご案内

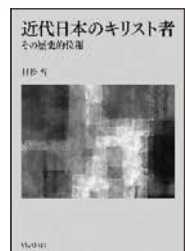
お近くの書店、Amazon.co.jpからお買い求めいただけます。

### 近代日本のキリスト者 ——その歴史的位相

村松 晋 著

2020年12月25日発行  
4,950円（10%税込）

近代日本におけるキリスト者の信仰・思想を、時代社会をふまえ内在的に明らかにする。



### M・L・キングと共働人格主義

菊地 順 著

2021年3月25日発行  
6,490円（10%税込）

「神と人間との共働」を主眼とし、キングの実践を生み出した信仰的背景を論じる。



聖学院大学出版会 TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324  
URL:https://www.seigpress.jp